

第5学年音楽科学習指導案

日 時 平成 16 年 12 月 7 日(水) 5 校時
場 所 金ヶ崎町立第一小学校 2 階 音楽室
児 童 男子 10 名 女子 15 名 計 25 名
指 導 者 教 諭 福 井 恵 里 子

1 題材名 「きれいなひびきで」

2 題材の目標

声の重なり合いや楽器の音が重なり響き合う美しさを感じて、合唱や合奏を楽しんだり、鑑賞したりする。

三部合唱の響きを味わって歌うことができるようにする。

3 教材名 『滝 廉太郎の歌曲』 『星の世界』 『ピアノ五重奏曲「ます」第4楽章』

4 指導観

(1) 題材について

この題材は主に学習指導要領の A 表現(2)のア「歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現のし方を工夫すること。」(2)のイ「拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること。」(3)のア「呼吸及び発音のし方を工夫して、豊かな響きのある、自然で無理のない声で歌うこと。」 B 鑑賞(1)のウ「楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと。また、それらの声の重なりによる響きを味わって聴くこと。」に関わるものである。

この題材では、歌声や楽器の音が重なり合う美しい響きを味わったり、きれいな響きを感じられる表現を目指して工夫したりすることをねらいとしている。そのために、美しく響き合う音を探ったり、多様な表現形態を経験する中で、快いと感じる拍の流れやフレーズを工夫したり、あるいは旋律の流れに合う和音の響きをつくったりしながら、児童が積極的に音楽にかかわる学習を工夫するように進めることが大切であると考え。

「滝 廉太郎の歌曲」は、女声合唱・男声合唱・混声合唱の形態を知ったり、それぞれの合唱の美しい響きを味わって聴くことができる鑑賞教材である。「星の世界」は、三部合唱の導入として、和声の変化が分かりやすいような形の曲である。三部合唱をきれいに仕上げようとすると、正しい音程で歌うこと、互いに聴き合う自然な柔らかい声で歌うことなど、様々な問題にぶつかるが、その一つ一つを解決していくのにふさわしい教材である。「ピアノ五重奏曲ます第4楽章」では、主な旋律とその変化、また楽器の音色を感じ取りながら、重奏の美しさを味わって聴くことができる鑑賞教材である。

(2) 児童の実態

子どもたちは、歌ったり楽器を演奏したりすることが好きで、合唱することについても「美しい声を響かせたい。」「気持ちを込めて歌いたい。」という思いをもっている。また、今までに音の重なりを意識しながら二部合唱の学習を経験したり、1学期には「それは 地球」で、三部合唱を楽しんだ。

しかし、「こういう響きをつくりたい。」という思いがあっても、どのように表現し、どのように工夫していったらよいか、分からずに歌っている状態である。また、お互いの音色を聴き合ったり、響きに気を付けて歌い合うことは十分とはいえない。また、音楽に対する苦手意識が強い児童も数名いる。

この題材を取り組むことで、楽しく活動しながら、きれいな響きで合唱できるようになると考えられる。ハンドベルやベース音を聴きながら合唱することにより、それぞれのパートをしっかりと歌い、ふしの重なりを感じ取りながら、表現の技能を身につけて、今後の歌唱表現に生かしたいと考える。

(3) 指導について

この題材では、子どもたちが響き合う美しさを感じて合唱や合奏をすることが楽しく、気持ちの良いことであることを体感させるために、歌声や楽器の持つきれいな音色を生かすことが大切であることに気づかせたい。

「滝 廉太郎の歌曲」では、大人の歌声を取り上げて、女声・男声それぞれの特徴を感じ取って歌曲の良さやいろいろな合唱形態を知り、大人の声の特徴や美しさを味わわせたい。そして、鑑賞で感じ取った旋律が重なり合う響きの美しさやおもしろさ、楽しさを歌唱教材「星の世界」に生かして指導していきたい。ここでは小グループになり、友達の色を見合ったり聴き合ったりして歌いながら、旋律の重なりを感じ取るようにさせたい。また、三部合唱という和音の響きを感じさせるために、ハンドベルで和音をつくり、その和音に合わせてパートごとに歌ったり、三部合唱にしたりして楽しみながら気持ち良く歌わせたい。そのような活動を通して、声が重なってできる響きの美しさを感じて合唱したり、表現の工夫をしたりしながら、児童自身が音楽を表現している実感を深め、三部合唱をつくり上げていくように取り組ませたい。その経験をもとに、鑑賞教材「ピアノ五重奏ます第4楽章」では、楽器の音の重なり合う美しい響きを楽しんだり、主題が変奏されていく様子を感じ取ったりさせたい。

5 題材の評価規準

		ア 関心意欲態度	イ 感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
内容のまとめ まりごとの 評価規準	歌唱				
	器楽				
	鑑賞				
題材の 評価規準		・音や声の重なりに関心を持ち、進んで表現を工夫しようとしている。	・音や声の重なり合う響きを感じ取り、歌い方や表現のし方を工夫している。	・音や声の重なり合う響きを歌い方や演奏のし方を工夫して表現できる。	・声の重なりによる美しさを感じ取ったり楽器の音色を味わって聴いたりすることができる。
具体の 評価規準		表現形態に興味を持ち、進んで聴こうとしている。 声の重なりによる響きの美しさを感じて、歌唱表現しようとしている。	曲想を感じ取って気持ちを込めた歌い方を工夫している。 響きの違いを感じ取って、音の重ね方を工夫している。 楽器や和声による様々な演奏形態の音楽を聴いて、響きの特徴を感じ取ったりしている。	パートの歌い方を工夫して正しい音程で歌うことができる。 重なる響きを感じながら歌うことができる。 響き合いや音色に気を付けて演奏することができる。	様々な楽器や声のかかわり合いによる多彩な響きの美しさを感じ取って聴くことができる。 変奏のおもしろさを感じ取って聴くことができる。

6 題材の指導と評価(6 時間計画)

時	学習内容(時数)	評 価					具体的評価規準	評価方法
		ア	イ	ウ	エ			
第 1 次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 合唱の種類を知ろう。 ・「荒城の月」の範唱 CD を聴いて、大人の合唱の演奏形態を知る。 大人の声の特徴を知ろう。 ・身近な楽器の例をもとに、大人の声の高さと合唱の響きに対して関心をもつ。 					<ul style="list-style-type: none"> ア 表現形態に興味を持ち、進んで聴こうとしている。 イ 声による響きの美しさを感じ取って聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表情や態度の観察 ・学習ワークの利用 	
第 2 次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 曲の感じをつかもう。 ・「星の世界」を聴いて曲の印象について意見を交流する。 高音部のパートを知ろう。 ・高音部のパートの階名唱、歌詞唱をして旋律をつかむ 中音部のパートを知ろう。 ・中音部のパートの階名唱、歌詞唱をして旋律をつかむ 低音部のパートを知ろう。 ・低音部のパートの階名唱、歌詞唱をして旋律をつかむ 					<ul style="list-style-type: none"> イ 和声による響きの特徴を感じ取ったりしている。 ウ パートの歌い方を工夫して、正しい音程で歌うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・態度や発言の観察 ・演奏聴取 	
(2)	<ul style="list-style-type: none"> 響き合いを感じて合唱しよう。 ・パート毎に自信のない部分を出し合い、音の取り方を練習する。 ・ハンドベルの響きを聴きながら、合唱練習する。 ・響き合いに気を付けて歌う。 ・お互いのパートを聴きながら合唱する。 					<ul style="list-style-type: none"> イ 響きの違いを感じ取って音の重ね方を工夫している。 ウ 重なる響きを感じながら歌うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言や態度の観察 ・演奏場面の観察 	
本 時 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 三部合唱の豊かな響きを感じて合唱しよう。 ・ハンドベルでつくる和音を聴きながら、合唱練習する。 ・ベースの音も加えて、合唱練習する。 ・声の重なり合いを聴きながら、合唱練習する。 					<ul style="list-style-type: none"> ウ 響き合いや音色に気を付けて演奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言や演奏場面の観察 	
(4)	<ul style="list-style-type: none"> グループで発表しよう。 ・グループで演奏を発表し聴き合う。 ・グループ発表での録音を聴いてワークシートに記入する。 					<ul style="list-style-type: none"> ア 声の重なりによる響きの美しさを感じて歌唱表現しようとしている。 イ 曲想を感じ取って気持ちを込めた歌い方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏場面の観察 ・ワークシートの利用 	
第 3 次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 主題の旋律に親しむ。 ・ピアノに合わせて旋律を覚える。 ・まずのパートをリコーダーで演奏する。 ・変奏曲について理解し変奏していく様子を感じ取りながら聴く。 					<ul style="list-style-type: none"> イ 楽器による響きの特徴を感じ取ったりしている。 エ 変奏のおもしろさを感じ取って聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏場面の観察 ・ワークシートの利用 	

7 本時の目標

声の重なり合いや響きを感じて、その美しさを感じて、三部合唱することができる。

8 本時の評価規準・具体的評価規準

本時の評価規準	具体的評価規準(判断の尺度)		努力を要する児童への対立・手立て
	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	
・響き合いや音色に気を付けて演奏することができる。	・互いのパートや楽器の響きをよく聴き、ハーモニーを意識しながら響きのある声で歌っている。	・互いのパートや楽器の響きを聴き、響きのある歌い方で歌っている。	・同じパートの友達に合わせて歌ったり、ハンドベルの音をよく聴いて歌うことができる。

9 本時の展開

段階	学 習 内 容	指導上の配慮事項	評価
導 入 (10)	<p>1 既習曲を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あくびのうた」 ・「ためいきのうた」 ・「ピリープ」 <p>2 学習課題を設定する。</p> <p>前時の「星の世界」の歌声を聴き、気が付くことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいに重なり合っていない。 ・響きが足りない。 ・強弱がない。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">声の重なり合う響きを感じ取りながら、三部合唱しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の導入をスムーズに行い、楽しく音楽を行う雰囲気をつくる。 ・声の響きに気を付けながら、高音・低音パートをそれぞれ聴き合って歌うように意識させる。 ・録音した合唱をもとに、気が付くことを発表させる。 ・本時の学習について、しっかりと確認する。 	
展 開 (30)	<p>3 ハンドベルやベースの音を聴き、和音を感じながら歌う。</p> <p>(1)ハンドベルの和音を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単音よりも響き合いを感じる。 ・気持ち良く歌える。 <p>(2)ベースの音を加えて豊かな響きを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低音の音に支えられて、一層響き合いを感じる。 <p>4 響きを感じ取るための工夫を考える。</p> <p>(1)各パートとハンドベルの音で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートとハンドベル、 ・パートとハンドベルで歌う。 ・パートとベース音、 ・パートとベース音で歌う。 ・パートとハンドベル・ベース音、 ・パートとハンドベル・ベース音で歌う。 <p>(2)ハンドベルやベースの音を聴きながら、声の重なり合う響きを感じて全体で合唱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・I度の和音、度の和音、度の和音を伴奏にマで歌わせ、響きのある声で歌うように意識させたい。 ・ベース音に加わったことで表現に深まりがでてくることを感じ取らせ、三部合唱の美しさを感じ取らせたい。 ・パート(高音部)とパート(中音部)・パート(低音部)に別れさせる。 ・パート毎に和音を感じながら歌わせたい。 ・ベース音だけでは、不安定であると感じ取らせたい。 ・メロディー以外の二つのパートがきれいな和音を作ると、美しくなることに気づかせたい。 <p>響き合いや音色に気を付けて演奏することができたか。</p>	
終 末 (5)	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表する。 <p>6 次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントを活用し、本時の課題について達成感や学び方について振り返らせる。 	